〔小林秀雄氏への公開状〕

牧野信一

青空文庫

この手紙を書くべく考へはぢめて、もう十日あまりも経つのであるが、手紙といふても稍かたちの違ふものであるから、起きあがつてからと思つてゐるうちに、中々風邪が治らず、もう間に合ひさうもなくなつたから、寝たまゝ弁解風のことを書く。

この間、風邪をひいて寝たはぢめに、いつかの君の小篇小説「からくり」を読み直して、仲々面白かつた。これに就いての、愉快な読後感を書きおくらうと思つた。

いつぞや、レインボーのサロンで、君の眼前でこれを読み、君に読後感を叩かれた時は、内心今度と同じ面白さを感じてゐたにも関はらず、つい、それをそのまゝ云ひ損つてしまつた。一言か二言何か云つただけに終つてしまつたのだつた。

「この次には、こんなのではない、もつと別なのを書く、書いたら見せるぞ。」

と君は、あの時云つた。

「見せて呉れ。」

僕は即坐に答へた。

その時、それに就いての話は、それだけで終つてしまつた。

あれは、たしか夏のはぢめの頃ではなかつたか。——そして、あれきり、別の作を君は未だに示さない。僕は待つてゐる。先月だつたか、さいそくの手紙を出したと思ふが。「別なの——」は、未だ知らぬが、僕は、あの短篇のやうなものでも、面白い——僕は、未知の作者のも

のとして、不意にあれを発見したならば、その時直ちに、その作家に手紙を書いたに違ひない。斯う書いて来ると、次第に亢奮を覚へて来て、今日の風邪状態では、書つゞけるのが困難になるから――次の機にゆづる。

次の機会といふのは、君に依つて第二作を示された時と、約しておく。手紙を出すであらう。とう〳〵僕も此方の定つた住人となつた。下宿生活の疲労が発し加けに風引きでもう半月になるが、一度そつちに出かけたきり、毎日寝続けた。――僕は、この間田舎から携へて来た一枚の石版画――ピエル・フオンの古城の図を額ぶちに入れて、壁に掛け、城内に残存してゐるといはるる、円卓子の騎士達やシヤルル・マーニユの兵士等のアパートや食堂を忍びながら、余もこの病ひの恢復を待つて、この新居で、最も盛大なる Round table の夜会を催さう――と計画してゐる。

青空文庫情報

底本：「牧野信一全集第四巻」筑摩書房
　2002（平成14）年6月20日初版第1刷発行
底本の親本：「作品　第一巻第六号（十月号）」作品社
　1930（昭和5）年10月1日発行
初出：「作品　第一巻第六号（十月号）」作品社
　1930（昭和5）年10月1日発行
※題名の〔〕は、底本編集時に与えられたものです。
※「小林秀雄氏への公開状」と題した企画への、回答です。
入力：宮元淳一
校正：門田裕志
2011年8月1日作成
2016年5月9日修正
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

〔小林秀雄氏への公開状〕

牧野信一

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/